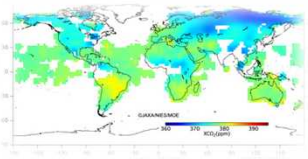
いぶき（GOSAT）観測体制強化及びいぶき後継機開発体制整備

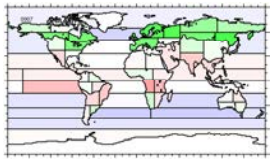
平成26年度補正
予算額400百万円

温室効果ガス観測技術衛星・いぶきの使命

平成21年に打ち上げられた「いぶき」は、平成26年1月に設計寿命を迎えているものの、後期運用段階として観測を続けている。世界をリードする温室効果ガスの多点観測データを提供することにより、気候変動の科学、地球環境の監視、気候変動関連等施策に対し貢献する我が国の国際社会における貢献を継続的に果たすため、平成29年度打ち上げを目標として平成24年度より「いぶき」後継機の開発に着手。

補正予算では、後継機打上後に精度の高い観測データを公表するために必要不可欠な観測・データ処理過程の統合的高度化、REDD+のMRVシステムの開発、地上・航空機観測による後継機開発のための観測体制強化を、平成29年度の打ち上げに間に合うように前倒して実施する。





期待される効果

- ○大都市単位あるいは大規模排出源単位での二酸化炭素等の排出把握を行い、アジア諸国等におけるJCM実施の効果検証に資する。
- ○二酸化炭素等の排出削減に加え、ブラックカーボン（BC）の都市単位の総合的な測定等を行い、気候変動対策を含む総合的な環境対策の進展を図る。
- ○国別、準国別のエネルギー起源二酸化炭素の排出状況及びその削減ポテンシャルを把握し、途上国を中心に低炭素化に向けた施策立案等につなげる。
- ○REDD+活動の温室効果ガス削減・吸収効果を定量的・客観的に把握し、世界の森林の減少・劣化に伴う温室効果ガスの排出の削減に貢献する。

事業スキーム

環境省 → 民間団体等

REDD＋のMRVシステムの開発等の請負

後継機開発・年次計画（予定）

年度	H25	H26	H27 ～ H29	H30～
※エネルギー対策特別会計で要求 ・バス開発 ・ロケット開発 ・搭載センサ開発 ・地上システム整備 ・後継機の運用			打ち上げ	
・観測・データ処理過程の統合的高度化 ・REDD+のMRVシステムの開発 ・地上・航空機観測による後継機開発のための観測体制強化				